

## アイヌタイムズ 第45号 日本語版

---

---

---

### ★ アイヌ民族が先住民族であることが認められる

2008年6月6日に、国会は政府に以下のように言いました：「[政府(あなた)は] アイヌ民族が先住民族であることを認めるとよいです。『先住民族の権利に関する国際連合宣言』に書かれていることをまねして、すべきことをするといいです。」と言いました。

その後、町村官房長官は、以下のような話をしました：「アイヌ民族がないがしろにされ、持っているものを奪われたため、多くのアイヌ民族が貧乏になったということを本当に気の毒に思っています。アイヌはアイヌ語を持ち、カムイノミもし、アイヌ文化も持って、先住民族であることを認めます。ア

イヌが民族として敬意を持たれつつ、その文化が次世代によく伝えていけるようにするといいです。」と話しました。

北海道ウタリ協会の加藤理事長は、以下のような話をしました：「官房長官は、アイヌ民族が先住民族であるとはっきり言った。140年経って、初めてアイヌが良い暮らしができるように準備ができたと思う[民族は140年にして光が見えたと思う]。とても感謝している。」と話しました。

北海道は、2006年10月にアイヌ民族が、ど

のように生活しているか聞いたところ、生活保護を受けているものが平均より多く、高校や大学で勉強しているものが平均より多くな  
いということがわかりました。

アイヌ文化振興法は文化だけを大事にするように作られた法律であり、アイヌのような

先住民族がよい暮らしができるように、『先住民族の権利宣言』に書かれていることを大事にしてそのようにするとよいと思います。

[横山 裕之] 沙流・千歳